

令和3年度 施政方針

私たちの生活は新型コロナウイルスによって一変しました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界へ広がり、世界中が未曾有の事態に直面しました。本市におきましても、日常生活をはじめ事業の継続や雇用の維持などに大きな影響が出ております。市民の皆さまには、不要不急の外出の自粛や休業など、さまざまな制約に対して大変なご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。また、感染の拡大を防ぐため、日々ご尽力いただいている医療従事者をはじめとした皆さまに深く敬意を表します。

本市は昨年度、市制施行70周年を迎えました。この節目の年を市民の皆さまと一緒に祝うため、さまざまな記念事業の実施に向けて準備を進めてまいりましたが、感染拡大により、予定どおり実施することができませんでした。今年度には、感染症の状況に十分留意しながら、「市制施行70周年プラス1事業」として改めて実施していきたいと考えております。

また、今年度には、刈谷駅北地区における再開発事業が完了するとともに、スマートインターチェンジが刈谷ハイウェイオアシスにおいて開通いたします。その他、JR刈谷駅の改良や刈谷依佐美地区工業用地の整備などを引き続き押し進めながら、本市の持続的な発展に向け取り組んでまいります。

感染症の収束に向け、重要な鍵を握るのがワクチンの接種となります。本市におきましても、愛知県や医療機関と連携しながら、ワクチンが供給され次第、速やかに市民の皆さまが接種を受けられるよう準備を進めているところです。また、感染症の影響を踏まえた支援策につきましては、コロナ禍において小さなお子さまを育てている家庭や、大きな打撃を受けました飲食店に対する支援など、今後も、その時々状況を把握し、的確に対応してまいります。

明けぬ夜はないと言います。感染拡大により先の見えない状況が続いていますが、必ず収束する日が訪れるものと信じております。本年がその年となることを願うとともに、ウィズコロナ、そしてアフターコロナを見据え、現在の社会の中で何を元に戻し、何を变えていくのか、熟慮しながらまちづくりを進めてまいります。また、本年は、東日本大震災の発生から10年という大きな節目を迎えました。この地域でも南海トラフ地震による被害の発生が危惧されており、市民の皆さまが安心して希望を持った生活を送ることができるよう、感染症対策にも配慮した防災対策に取り組んでまいります。

引き続き、「日本一 安心安全なまち刈谷」の実現に向けて全力を尽くし、市民の皆さまが「元気」に「笑顔」で未来に「希望」を持てるよう、バランスよく、施策を実施してまいります。



刈谷市長 稲垣 武

まちづくりのキーワード

「元気・笑顔・希望のまちづくり」

守ろう！安心安全と健康…安心して暮らせるまちづくり

育てよう！子どもと未来…未来に希望が持てるまちづくり

輝こう！暮らしと仕事…魅力と活力にあふれるまちづくり